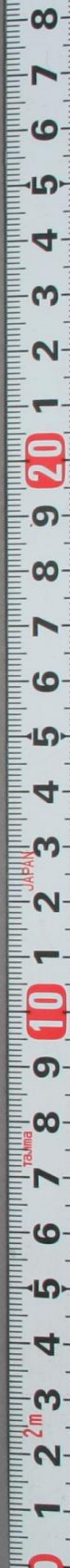


松屋筆記

卷十七



門 45
號 1397
卷 1

50

高田 昌
高田 昌

松屋筆記

巻十七



十七より三十六まで

るんてい

五

ハセテ

九 天下万国の世界
 十 人の世界
 十一 内中世界
 十二 長溝
 十三 荒神
 十四 日本に独銘の形と云流
 十五 大炊屋 最大炊殿
 十六 政所屋
 十七 校屋
 十八 左司 并 庄子

十九 道具
 二十 花形釘
 廿一 床并榻
 廿二 抄敷
 廿三 高坏平坏
 廿四 風佐歌
 廿五 匠未并人未
 廿六 琵琶湖
 廿七 唐濱唐屋
 廿八 伊豆の名義

(廿八) 来宮大明神
 (廿七) 摺本
 (廿六) 平禮
 (廿五) 相模國 鳥取寺
 (廿四) 矢立松
 (廿三) とくちいかりとちい
 (廿二) あわづ
 (廿一) 虚言を懐く子
 (廿) 哥を
 (廿九) 善悪の友

(廿九) 其之所着中店火の用い
 (廿八) 恩地
 (廿七) 庄屋
 (廿六) 科銭 并過科銭
 (廿五) 又
 (廿四) 永代澄文
 (廿三) 毛見 并換見
 (廿二) 井群行 并懸者
 (廿一) 上より
 (廿) ねをいふ布 并大物

(四六) 定飛脚
 (四七) 石路の幅
 (四八) 片杖並四地旗の尺杖
 (四九) 袴乃禁制
 (五〇) 布子并定紋付の衣服
 (五一) 虎の爪のうぎ
 (五二) 帳とひつる
 (五三) 燈明の臺のしう木
 (五四) うやぎし射并小笠る
 (五五) 家うしおつる

(五九) 神事としう
 (六〇) 笛の穴の名

杉屋筆記卷十七

東都 高田與清之儒稿

○世のなま儒者も多しとていふ歌

弟も此の危山上憶良匠の令及惑情
其歌い世のさうふいふ儒者も多し
いふれこれの反歌も又その天路いふ
一うふもあふふいふなりとていふ

○蛇と鰐と我い蛇と馬蛇と我い

竹生嶋縁起子竹生島、稱号西洗
雅似有、其諸島、從後彌羅有、竹
生島、号行、其善薩、即、願、後、竹
生島、号、強、盛、矣、爰、海、龍、愛、大、龍、
迴、嶋、七、匝、蟠、繞、首、尾、相、咋、每、其、
一、匝、一、神、臥、坐、位、於、方、今、之、大、神、及、
七、所、神、子、是、也、乃、從、難、以、象、有、一、
大、蛇、長、數、丈、也、從、宇、治、川、登、到、
此、嶋、之、上、右、辰、來、者、之、人、于、時、件、大、
蛇、蟠、尾、於、大、似、垂、頭、於、衆、岸、近、

頭、吞、水、爰、件、大、龍、喫、其、首、用、以、咋、
其、大、蛇、之、頭、有、迅、戔、之、木、不、獲、根、
這、神、嶋、頃、頃、件、地、蛇、小、力、不、及、龍、勢、
故、云、神、其、蛇、所、居、者、今、云、中、尾、也、
云、之、同、本、今、昔、物、決、廿、一、の、卷、之、今、の、昔、
近、江、國、志、賀、郡、古、市、郷、之、南、南、二、心、
見、ノ、瀬、有、郷、ノ、南、字、之、勢、方、多、河、有、
其、河、ノ、瀬、也、其、瀬、之、大、海、ノ、勢、字、江、
ノ、瀬、上、載、之、而、向、向、勢、載、之、負、之、レ、バ、
其、近、り、下、テ、山、背、ノ、國、三、石、十、成、テ、居、又、

わくもいそふ氏ゆるはたきぬ
せうふたづとくしうのふり
そつしき

④くちをいそふ世界

氏ゆるはたきぬ
やういそふ

⑤はみはつるたうい

氏ゆるはたきぬ
つまやういそふ

⑥さういそふ世界

氏ゆるはたきぬ
つまやういそふ

⑦さういそふ

氏ゆるはたきぬ
つまやういそふ

⑧さういそふ

氏ゆるはたきぬ
つまやういそふ

⑩ 〆ろゑやうい
多岐のろ 藍丁はろゑやうい
ゑゐ人とおつたろゑやうい
けしき

三つよのこ

近江栗本郡金勝寺官符二刻講
法華夕演取勝是之長講云々又
云定七億始長明旦至晚除轉讀
法華稱之三昧云々二時長講逐日
無缺終日三昧字時亦休云々

鹿王禪院也慈寶珠記子暹華
三昧經震旦國中唯一都之經也

此經云地藏菩薩在本地南方寶
如來之變成四面向八臂軍衆利明
王之王變成將軍地藏菩薩一臂
翻也美菩薩變成大鬼神一云按
鬼神のとも真俗雜記にもあり也

（圖）日本に於ける地藏の形と云説

司書子勝軍地藏推護大日本國
所執之弓箭以衆爲弓以衆爲矢
爲外衆也息災三昧耶形也衆
是像以三昧耶形也此乃表扶

桑田豐年原日本最初如華年
角故結結人華年角形祈天下大
平國土安寧了云云按子指芥抄中未
了日本國尚も戴て云大日本國面
行其善菩薩所面也此土形如結
頭仍佛法滋盛也其形如宝形故
有金銀銅鉄等諸宝也穀豐稔
也七道州六十ヶ内嶋三郡六面
鄉一万三千余戸也此清所藏子度
長年間の日本國一鋪あり日本子

乙唐紙一枚の大圖

⑤ 大炊屋并大炊敷

慈惠大僧正所遺告の板蓋月大炊屋

一字^{面底}同二ら^{面底}源氏明石巻子^{面底}あ

い^{面底}あ^{面底}とあり^{面底}初延^{面底}か^{面底}さ^{面底}く^{面底}る^{面底}あ

く^{面底}さ^{面底}く^{面底}る^{面底}あ^{面底}食物^{面底}は^{面底}く^{面底}く^{面底}る^{面底}あ

ふ

⑥ 政所屋

同^{面底}り^{面底}子^{面底}政^{面底}所^{面底}屋^{面底}一^{面底}字^{面底}板蓋月^{面底}二^{面底}間^{面底}を^{面底}

あ^{面底}よ^{面底}政^{面底}所^{面底}の^{面底}政^{面底}取^{面底}行^{面底}の^{面底}役^{面底}下^{面底}の^{面底}政^{面底}所^{面底}職^{面底}

と^{面底}あ^{面底}る^{面底}の^{面底}軍^{面底}と^{面底}治^{面底}の^{面底}役^{面底}可^{面底}子^{面底}居^{面底}の^{面底}也^{面底}

の^{面底}役^{面底}可^{面底}子^{面底}北^{面底}政^{面底}所^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}板^{面底}あり^{面底}南^{面底}の^{面底}

表^{面底}北^{面底}に^{面底}後^{面底}の^{面底}婦^{面底}人^{面底}内^{面底}と^{面底}同^{面底}く^{面底}あ^{面底}る^{面底}北^{面底}政^{面底}

所^{面底}と^{面底}板^{面底}の^{面底}親^{面底}世^{面底}音^{面底}を^{面底}政^{面底}財^{面底}帳^{面底}と^{面底}北^{面底}政^{面底}所^{面底}と^{面底}

⑦ 校屋

同^{面底}書^{面底}子^{面底}校^{面底}屋^{面底}二^{面底}字^{面底}可^{面底}政^{面底}所^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}板^{面底}あり^{面底}

校^{面底}倉^{面底}の^{面底}木^{面底}と^{面底}同^{面底}角^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}も^{面底}板^{面底}あり^{面底}付^{面底}

乙^{面底}同^{面底}く^{面底}の^{面底}倉^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}板^{面底}あり^{面底}東^{面底}大^{面底}寺^{面底}の^{面底}校^{面底}

倉^{面底}の^{面底}木^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}板^{面底}あり^{面底}校^{面底}屋^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}

の^{面底}類^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}板^{面底}あり^{面底}校^{面底}屋^{面底}の^{面底}類^{面底}と^{面底}い^{面底}う^{面底}

名物記
 無敵
 名持の
 中
 新授
 皇下
 皇持
 鏡持
 皇下

同書子通具も載るもいふ
 併の法具の今世調度と通
 具と云ふは調度部と云ふ
 和名抄にも調度部と云ふ
 うたはみりていふもいふ
 (廿) 花形釘
 阿弥陀宝物目録に花形釘
 とも調度を作らる月日
 釘の類なり
 (廿) 床并桶

同書子床二所
 右以二胡床書水形高一尺
 三寸廣四尺長二尺五寸
 齊二枚表裏緑錦
 貴簀二枚西復二條
 右甲綴紗三副長名
 云々
 又云聖之信桶
 一前 作以水精并金泥花形釘高一尺二寸 齊一
 枚貴簀一枚西復一條 表裏緑錦
 桶一前 作以水精并金泥花形釘高一尺二寸 齊一
 枚貴簀一枚表裏緑錦
 齊一枚表裏緑錦
 貴簀一枚

廿二 打教

觀世音菩薩 新財帳 下 何 打教 壹條
裏訓とあり 今の世も 打教とあり

廿三 鳥坏平坏

序法大尊 念記の多加 浪岐 以良 浪岐
とくこ 正あ 大尊 念記の多加 又さり
高坏とあり 中平坏も ヒラツキとよ
しららるるや

廿四 凡俗歌

又云 凡俗者 新詠歌也 以テ其 哥之心 新
要略ニテ 凡俗ニテ 凡俗也 俗者習也

造樂也 依樂又作哥 近代 不歌也
不知歌心 振作樂成 新 鳥歌 五言
不諧

廿五 匠未人未

宣命文 匠未と書る 下 匠未と書る 又
序法大尊 念記の多加 中 匠未と書る
物部 匠未 酒造 匠未 匠未 匠未
匠未 匠未 匠未 匠未 匠未 匠未

廿六 琵琶湖

竹生 嶋 縁 起 子 溪 川 集 動 湖 海 者

琵琶形也所以竹生嶋者覆手也小
島也新島者撥也島内之宮殿者唐
月也白石与竹島者半月也如海者
遠山也勢多者底頭也自宇治至
海者海老尾也湖海軍底四海流即
四流也法示天竺之標相生身并才
所居也云々如云復手撥陰月半月
遠山底頭海老尾曰流才と云琵琶
の石なり

④唐濱唐原

走湯山縁起の巻相摸因唐濱磯部
海潛現一目鏡云々如云唐濱ト伊
豆山の杜康ト云々又又切記當
我物語云々類云々云々云々
云々相摸の目と鎌倉云々云々
云々云々

⑤伊豆の石載

同書一の巻云伊豆國の山と湯と川と
云々同上の巻云以國名號伊豆侯者
品三辨玄珠豆者頭首也所謂此載

頭頭懸三辨宝珠是故云何意也
くろく何意と云名義い海の中
出の義なり熱海走湯山
よる海泉ありは湯出の義なり
縁起の記に取子足ふも古き記に
縁起と云何意者何者熱比頂也
類也といふ事頭といふ事は
こゝろくは撰腹と云ぬ記

⑧ 来宮大明神

空海年九何意目熱比頂の王と来宮大明神を
若牙来神廟記

古き社もいと大なり楠木あり中
の空移り置ハ帳と云といふ記
湯の縁起二の巻と云の縁起も載て
高麗より功事と云の記あり来
大明神といふこと

⑨ 檜

走湯山の縁起と云の巻に永觀元年法
立三向檜皮書と云同本朝檜
寫本經論人所述作千餘秩納之
云書案鏡と檜木あり

④ 平禮

其手鏡十其手鏡十又將車
副二人平禮云雜色七人皆平云而
練抄負應元年二月五日今夜左大將
宰相實經拜賀也駕毛車事副平礼
白襖上下
薄色袖牛臺前驅云雜色七八輩平云
山挽記るも云々也負太曰平礼
よふ立烏帽子を頂と折て若くは
平礼云々也云々也平礼の字を用ふ
此のうを云々云々西公談抄云大貳鳥遠云

位平礼云々の袴云々云々雜色也引
つろいへ大細云々云々云々云々
云々云々平礼云引つろい云々云々
云々平礼云引つろい云々云々雜色也引
束を云々云々

⑤ 相模國高麗寺

笠根山崎起云神功皇后討三韓
後有武内大臣奏云奉清雲洞
大神而合祈願天下長安寧矣
即奉遷而濟明神于四州奉

さる日ありてあまづしちねと
来ばあつてくさるづきと云い
二今依りよみうくと云い

（其）虚言を慎む事

又云上り万民の對し一言は句を
虚言とすづきしをあるもの
わづらふしきとてきなるもの
たりとやうし人うやうとるもの
づし人ふれしきやといひ類の恥と
に得づきしき此清田切著の人

そふとは欺き者なり老成の人の
虚言を理と考へてくさるもの
根を因てて遂に國家をある
つとをづしき者の虚言を千載
に傳へて後世とあやうとある
識の潮音の萬事大成能多田義
信の著書の類に何路自丈とい
ひるものもあつてあるもの

（其）奇なり

一
屋敷
家名

① 恩地

信玄家以上は不領之在田之外恩地
領之在田は却令停止之託又
云恩地係状支を據る不可請取
之云々恩地の君より孫恩地
賜りて此地を以て大和の恩智氏
り恩地より云々云々又越智の
部より云々可なり

② 庄屋

此言我部元親百箇條に在る所

屋相定之屋上者万事觸渡ぬ
頭不可存後云々云々
云々

③ 科銭 并過利銭

又云諸君行儀者及不及云上下
大河禁制之事 付解狂人
輕者科銭之費重者可成敗
けぬかぬ云々科銭 今の過利銭
の云々云々 贈銅と云々律令の云々
云々

④又
はきふ又
今もよ

⑤永代
いふ子買地
本末十使不相
云々

⑥毛見
同き子國中
上三

街々今換見

⑦井
井孝行

可中付
及大破
孝行中
可中付
つ小と
の者

下

⑧上

み高布も多しと云うもいた布と
いふ又今佐木錦類の織物と
た物といふた布の義も大に金い
今の曲り

④ 定飛脚

同より定飛脚より現在所を
屋敷迄可召遣急用之時え聊
まゝはるゑ忽可斬欲するところ
今も定飛脚と云う

⑤ 足跡の幅

同より定飛脚より現在所を
屋敷迄可召遣急用之時え聊
まゝはるゑ忽可斬欲するところ
今も定飛脚と云う

⑥ 尺杖 并田地旗の尺杖

同より尺杖の子城馬旗並馬旗
より尺杖の方尺杖より尺杖より
尺杖又田地を二為各ありとあり
ありありありありありありあり
田地旗の尺杖より尺杖より尺杖
なりなりなりなりなりなりなり

⑦ 横る杖判

盛衰記
丈尺ト云
ル物ナク
尺杖ニ

わしとてさうしうしうの假名のす
ちう杖の頭書より

燈明光

今の世に神佛のゆきとともぬ
燈臺を鉄のけり樹に配して
さしてさうしう考へるにありこの

富仲兎軍より

カヤギの射す少むかる

佛兎軍より一人の所防審刺許
頗わりの浸をさうしう取て十五束

カヤギの射す少むかる
車つのもうねうねと射す
さうしう又さうしう引く
板うきいハ大地獄を一つ射を
しを問地獄のわくおわき
さうしうねうねと地獄をさうしうおわき
わくさうしう古今若同集よりわき
射すけりさうしうおわき又木を
さうしうと又ありさうしうさうしう

東家之寶三

光
神學
と云
の

神聖の字

續教訓



(金)

大安寶 日曜星忠藏

降臨時止蓋外品
瑞龍甲時靜養品

小同金大寶

皇統元年八月

皇統元年八月

卷

時方集 山谷詩集

